

## 単語から連想してふくらむ 言葉のゲーム



越谷市立千間台小学校教諭

塚原 公恵

連想ゲームは、言葉が広がり発想も豊かになるゲームです。子どもたちと、連想ゲームをすると大いに盛り上がりがあります。一対一の対話形式で行っても、また、グループで行っても楽しく活動できます。「しりとり」と並んで気軽に楽しめる言葉のゲームの一つです。七月十七日と十月八日の国語学習で単元「ミニ本・連想」を作った遊んだことを紹介します（平成十五年度六年三組）男子23名女子13名。

### 1 ミニ本を作る

B4の上質紙を数回折り、4.5cm×6.5cmの大きさのミニ本を作ります。まず、最初に言葉を一つ決めます。その言葉と絵をミニ本の1〜2ページ目にかきます。次のページからは、同じように、一つの言葉と絵をかきます。

ので、どんどんイメージを広げてかき進めていきます。漢字や専門用語を調べている子もいました。漢字辞典や図鑑が活躍します。野球が好きな山下聡史さんは、自分の夢をのせて、「野球」「グラウンド」「甲子園」「高校野球」「熱戦」「二〇〇三年春選抜」「投げ合い」「投手戦」「上原対井川」「伝統の一戦」「ヤンキース対レッドソックス」「大リーグ」「ホームランボール」「死守」と進めていきました。完成した本はみんなで見せ合いました。

### 2 本で遊ぶ

完成した本で友達と連想ゲームをして遊びました。自分で作った本を使って問題を出すことにしました。遊び方は、ミニ本の最初のページに書いてある単語から、次のページの単語を相手に連想してもらいます。もし、当てられなかったら、ヒントを出していきます。当たったら、次のページに進みます。このゲーム



そうすると、連想がどんどん進んでいきます。ミニ本の最後のページが、連想の最後となります。そして、最後に表紙に題名を書きます。例えば、三浦真帆さんは、本の題名を「私の



小さな本」とつけました。そして、「リンゴ」「赤い」「ポスト」「手紙」「切手」「絵から」「洋服」「着る」「人間」「地球」「宇宙」「無限大」という内容の本を作りました。六年生ともなると言葉の数も豊富になり、こちらでは想像もつかない言葉と言葉をつなげます。自分の想像で作りますから、その子の思いが本に表現できます。子どもたちは、途中で立ち止まり、次にどんな言葉をつなげていくかを考えたり、一気に進んだりしながら本にしていきました。絵本になるので、文字の形や絵をどんなデザインにするかを考える子も出てきました。

一回目（十月八日）は、テーマを決めさせました。

子どもたちは、「相撲」「秋」「お菓子」「野球」などと自由に決めて連想をしました。自分の好きなテーマです

は、一対多数でも遊べます。伴友里恵さんのテーマは、「夏」です。友達の瀬口莉子さんと遊びました。まず、最初の単語は、「夏」です。次が、「花火」でした。友達との遊びで、その単語が当てられなかったので、「光る」「虹色」「浴衣」とヒントになる言葉をどんどん出していきました。友達は、「花火」とすぐに答えることができました。次に「花火」から「夜空」を連想します。ヒントは、「星」「天の川」と出していきました。最後の連想が終わると、お互いに顔を見合わせて、笑顔になりました。

### 3 ミニ本で物語を作る

八戸優さんが作った「連想物語・鳥編」という題名から、本で、物語を作ってみようと考えました。物語は、絵や言葉を見ながら口頭で作ります。近くの友達に自分のミニ本のページをめくりながら、物語を聞かせました。口頭での物語なので、何回も作り直すことができます。相撲が好きな松本豊さんは、「横綱の朝青龍は、今強い力士です。でも、ぼくにとって、千代の富士の強さが一番です。最近の相撲でもいろいろのは、業師が出てきたことです。」と、自分の知っている相撲の知識を使って話していました。友達と交換して物語を作った子もいました。本の作者を主人公にした物語です。聞き手である作者は興味津々と聞いていました。